

山家悠紀夫『景気とは何だろうか』岩波新書、2005 年

序章 危うくなった景気回復

●問題提起

景気回復を示す統計を読むと、経済統計で見たとき景気は回復していると書かれている (P5)。だが日経 BP 社のインターネットで行ったアンケートでは景気回復を実感できないと 82.7%の人々が回答している (P7L1~3)。

統計では景気回復を示しているのになぜ人々はそれを実感できないのか。

●理由

統計と実感との乖離について議論を交わすことはこの本のテーマである景気を理解することに繋がると考えたから。

A

エコノミストが「実質」で景気回復したといっても、「実感」を語る側（人々）は実際に給料や物価低下を経験しないと景気回復を実感できたといえないから。

B

大企業よりも中小企業が多いため、中小企業の業況が悪くならないと多くの人が実感できない。さらに名目 GDP が下がっているため実感できない。

C

給与が増えるか、物価が下がるなど目に見える変化がないと人は実感ができないから。

D

社会の大部分である中小企業の業況が悪いから、多くの人々が景気回復を実感できない。